

日本企業の研究開発マネジメントとイノベーションの現状—「研究開発マネジメントに関する実態調査」結果概要—*

文部科学省科学技術・学術政策研究所 第1研究グループ

小野有人, 羽田尚子, 池田雄哉, 乾友彦

要旨

本稿は, 筆者らが2020年1~2月に実施した「研究開発マネジメントに関する実態調査」に基づき, 日本企業の研究開発マネジメントの現状を明らかにすることを目的としている。具体的には, 企業の研究開発活動のインプットである研究開発費や研究開発者, 研究開発活動の成果であるプロセス・イノベーションやプロダクト・イノベーションの実現状況, そしてインプットと成果を結びつける研究開発マネジメントの概要を明らかにする。また, 研究開発マネジメントが企業属性やイノベーションの実現とどのように関連するかを, 要約統計量に基づき記述的に分析し, 今後より詳細な分析を行うための基礎的な情報を提供する。

The Current Status of R&D Management Practices and Innovation in Japan:

First Theory-Oriented Research Group, National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP), MEXT

ONO Arito, HANEDA Shoko, IKEDA Yuya, INUI Tomohiko

Abstract

In this study, we explore the current status of research and development (R&D) management practices and innovation among Japanese firms using a “Survey of R&D Management Practices,” which was conducted in January–February 2020. In particular, we focus on R&D inputs such as R&D expenditure and personnel, R&D outputs such as whether a firm has achieved process and/or product innovations, and R&D management practices that connect R&D inputs and outputs. We present descriptive statistics regarding various R&D management practices and univariate analyses of how R&D management practices differ between firms that have achieved innovations and those that have not. Our findings provide possible avenues for future research involving more elaborate empirical analyses.

* 本稿は『博士号保持者の知識活用への課題：組織・人的資本管理の視点に基づく調査分析』（日本学術振興会・科学研究費補助金・基盤研究(B) 19H01488)の研究成果の一部である。また, 日本学術振興会・科学研究費補助金・基盤研究(S)16H06322(乾), 公益財団法人 全国銀行学術研究振興財団(羽田, 小野)からの助成を受けた。本稿の作成にあたり, 研究開発活動に携わっている企業関係者の方々から調査票の設計に関して多くの有益な助言をいただいた。また, 栗原仰基氏(中央大学大学院)にはリサーチアシスタントとして多大なサポートをいただいた。ここに記して感謝申し上げる。本稿における見解は執筆者個人のものであり, 所属する組織のものではない。